

平成26年度第2回北海道立生涯学習推進センター運営協議会会議記録要旨

1 開催日時

平成27年3月19日（木） 15:00～17:00

2 開催場所

札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2・7（8階）
北海道立生涯学習推進センター創作実習室

3 報告

- (1) 道民カレッジ（ジュニアコース）受講システム及び称号授与について
- (2) ほっかいどう学ネット検定について

4 議事

- (1) 平成26年度事業実施状況（平成27年1月末現在）について
- (2) 平成27年度運営計画（案）について

5 配付資料

- ・報告資料1：道民カレッジ（ジュニアコース）受講システム及び称号授与について
- ・報告資料2：ほっかいどう学ネット検定実施状況について
- ・資料 1：平成26年度事業実施状況（平成27年1月末現在）
- ・資料 2：平成27年度運営計画（案）

6 出席者

- 北海道立生涯学習推進センター運営協議会委員（会長、副会長以下委員五十音順）
木村会長、加藤副会長、井上委員、今委員、佐藤委員、成田委員、三上委員、民部委員
- 北海道立生涯学習推進センター（運営協議会事務局）
毛利所長、柴田主幹、天山主幹、澤田主査、柴野主査、会田主査、本田主査、中山主任

7 審議等の概要

事務局による説明の後、委員が意見を述べた。主な発言は次のとおり。

（以下、発言順の記載 ○委員 ●事務局）

(1) 報告

①道民カレッジ（ジュニアコース）受講システム及び称号授与について

②ほっかいどう学ネット検定について

- ほっかいどう学ネット検定のジュニア検定について、多くの子ども達が受けられています。個々に校長先生に当たって受検者を増やしているのが実情ではないかと思えます。

是非、北海道全般の教育行政の中で、子ども達がほっかいどう学ネット検定を受ける雰囲気づくりとかシステムづくりなど、教育する先生方が子ども達にネット検定を受けさせる施策づくりをお願いします。

- 広報・普及周知について、今後、一層準備をして進めてまいります。
- ジュニア検定の中身について、子ども達にとって面白いのかなという印象です。自分達をもっと勉強したいという感じの中身ではなかったように思います。楽しく学べるような中身にしていだければと思いますので、もっと工夫していただきたいと思えます。これからジュニア検定で子どもを増やしていくため、道民カレッジ生を増

やしていくためにも、一番基礎が大事なのではないかと思っておりますので、もう一度中身の作成を考えていただきたいと思います。

- 検定問題についてですが、ふるさと学習の一環として主に小学3・4年生で使います社会科副読本等をベースに作成してきております。今後、もっと子ども達が興味や関心を惹くような問題作成に努めてまいります。
- 先程と今の意見を合わせますと、先生達が子ども達に挑戦させたいと思って勧められる中身になっているのか、子ども自身が挑戦したいというような興味を惹く中身になっているのかという両方の面が必要だと思っておりますので、小中学校の先生に意見を聞くとかそういうことも含めて努力をしていただきたいと思います。ネット検定は、前年度と比較して人数的には、どうですか。
- 今年度からネット検定に移っています。一般検定は、システム構築の関係のため、昨年度はお休みをさせていただきました。ジュニア検定は、ペーパーで各教育局や各道立青少年施設（ネイパル）を会場に実施いたしました。この後、担当から報告させますが、概ね昨年度は300名程度、今年度は500名を超えていますので、ネット検定の方が増えているという状況です。
- 昨年度のジュニア検定の人数ですが、初級が304名、中級が33名、合計337名です。今年度は、420名ですので、83名増加している状況です。
- 例えばですね、何度も問題を勉強できるようなシステムは良いと思いますが、幅広く受検者を広げるには、ネイパルだけに頼らないで、例えば、他の団体でも子ども達を集めて事業を行っていますので一緒にやりませんかと学ぶことの大切さを訴えることも大切だと思います。公民館事業でも子どもの事業をやっていますので、もっと浸透させるための努力が受検者を増やすために必要だと思います。
- 募集につきましては、今いただきました御意見を実行委員会にもお伝えして、様々な団体と連携して広報に努めるようお伝えします。また、学校単位でやっている学校もあり、先生が熱心にテスト形式にして何度も勉強させて本番に臨んでいるところもありますので、このような学校をもっと増やして子ども達の力を付けていきたいと思っております。
- 昨年よりは増えています、そんなに増えていません。何か障害というものはあるのですか。
- 今年度については、システムが出来上がった11月から実際の運用、検定が12月でしたので、システムが出来上がるまでどういうふうにしてテストを受けさせればいいのかというところまで含めた説明が十分にできないまま周知をした状況でした。来年度は、学校単位での申込みですとか個人の申込み方法など受検者のニーズに合わせた説明ができますので、周知して受検者を増やしていけるのではないかと思います。
- 今の説明は技術的なことですが、ほっかいどう学全般を含めて教育現場の中で、受け入れられにくいような土壌というのではないのでしょうか。
- そのようなことはありません。今年も、学校長会議ですとか教育局長会議などにおいてもネット検定の広報をさせていただいております。公的な部分でもお願いをしておりますので、今の御意見のような土壌はありません。学校で行うという

こととなりますと、教育課程の中にどのように位置づけていくのかという問題もあります。実際には、教科の時間を使ってやっていただいているところもありますし、パソコンを使いますのでパソコンクラブのようなクラブ活動の一環として検定に取り組んでいただいた事例もありますので、いろいろなケースに沿った形でやっていただければ良いと考えています。

- 受検方法が変わりましたので、これまでの一般受検者と受ける人が変わっているのではないかと思います。その辺のところは分かりますか。年代だとかはまだ分析されていないのでしょうか。
- まだ十分に分析はしていませんが、ネット検定としたことにより、道外からの受検者が増えています。
- 道民カレッジのインターネット講座の方は、相当受講する人が変わっているのではないかと考えているものですからお聞きしました。
- ジュニア検定の3級の合格率なのですが、3割という数字は、どのように考えていますか。10人受けて3人しか受からないというのは少し厳しいのかと思ったのと、先程のこれに取り組む意欲をどう育てるのかということに関わってくるのかと思うのですが。
- システムが出来上がったのが11月に入ってからですので、学習する期間が短かったということもありますし、小学校3・4年生の社会科の副読本を教材のほとんどにしているのですが、地域に住んでいる子ども達は当たり前に分かっていることが他の地域・管内に住んでいる子ども達にとっては全く知らないことがほとんどですので、ある程度勉強しないと点数を取れないというような形になっています。ですから、学習意欲を喚起していただきたいと、逆に1級・2級の合格率が高い理由ですが、これは、受検資格が昨年度のペーパー試験を受けた子ども達でないと受けられないことから、勉強を楽しんでやっている様子が伺えますので、合格率も高くなっているのではないかと分析しています。
- 実は、孫と一緒にやってみたのですが、やらせてみて面白くないのか興味を惹きませんでした。何度も繰り返してクリックすれば頭に入るのですが、面白みが欠けているものですから、そこで飽きてしまうのです。ですから、札幌の子がよそのまちのことを知りなさいと言っても難しいので、問題集に取り組む時に、例えば、ヒントを入れるとか、子ども達が興味を持って飛びつきやすい組み立て方を考えていく必要があると思います。そのためには、道も予算支援することも良いのではないかと思います。
- こういう形で子ども達が学習するいろいろな機会が出て来て、スタートすることは今後非常に楽しみです。そこで気になったのが、小学生1年生から6年生まで同じ教材を見て同じ試験を受ける形ですが、発達段階に対してどのような考えでテキストや問題を作られているのか、例えば、北海道では小学校1・2年生では生活科で理科と社会科を合わせたもの、3・4年生では自分達の身近なエリア、5・6年生になってからも少し幅広い日本や世界、または歴史というものが入ってくる時に、生涯学習だから発達段階はその子どもに合わせるのかと思うのですが、地域全体とか学校を含めて取り組む場合に、子どもの発達に合わせてどのような工夫をされているのか教えていただけますか。
- 問題の作成にあたっては、3・4年生の副読本をベースに作っていますので、難易

度的には義務教育課の指導主事に見ていただいて3・4年生が問題を解ける内容で作成しています。

- 3・4年生では北海道のことを勉強していますか。例えば、稚内に住んでいるAくんは自分のところことは分かるのですが、函館と言ったときにどのくらい遠いのかとか、どんな人がいるのかとか分かりづらい。歴史ですと小学校3・4年生の一般的な発達からすると、お父さんもおじいさんも、お母さんもおばあさんも同じくらいだと言われたことがあるのですが、そのあたりはどうですか。
- 基本的には、3年生が自分達の住んでいる地域、4年生が少し広がって管内とか北海道、5年生が日本全体、6年生になると歴史に入っていくということですので、4年生の部分がベースになっています。学年を区切らなかったのは、昨年度のペーパー試験において、1年生や2年生でも興味を持って勉強する子がいますので、そういう学びたいという子ども達の意欲を年齢だからといって切りたくないという考えがあります。そのため、漢字にふりがな・ルビを振って、読めるようにしていますが、問題作成者側の意図としては小学校4年生ぐらいを想定して作っています。
- 低学年でもどんどんいろんなことをやってみようというチャレンジングな子ども達が、学校の中では満たされない学習意欲をここで満たしているのだというところをもっと全面に出てくると、そういう子どもに対する提供という部分の理解が進み、うちの子も達はいろんなことを一生懸命やっているから少し早いけれどやって見ようかというふうになると思います。そういうところを全面に出していくと、ネットも使うのでチャンスも増えるし勉強の機会もあるという学校外だからこそ良いのだというところをもっと出るように発展させていただければ有り難いと思いました。また、道外の方々が北海道に対してどういう意識、ただ単に北海道から称号を受けたことで終わるのか、もっと積極的に北海道はこんなところが良いから観光大使をやってみたいとか、北海道の検定をそういった部分を拾えるような次に繋げる仕掛けを何か考えているのですか。
- 実行委員会には入っていませんので、意見としてお伝えしますが、私どもは、基本的には運営の補助ですとか、ジュニアの問題については子ども達に関わることで、本部事務局として支援しています。一般検定の活用については、前の検定もそうでしたが、何らかのアクションを仕掛けていかなければならないと考えていますので、実行委員会事務局にお伝えいたします。
- これまで交流人口と言われていたのが、最近是对流人口と言われ、循環するような形で人の行き来が地域を活性化するということですので、道外から受検されて北海道のことを勉強して下さる方がどのような属性なのか、そういった方々がどういう発言力をもっているのか、どのような環境にいるのかによっては、これからの北海道の応援団として期待できる方々ではないのかと思いますので、是非、称号を与えるだけではなく強力な応援団を育てているのだという意識で事務局の方がやっていただけると発展するのではないかと思います。
- いずれにしても、どちらももう少し参加して下さる方とか子ども達に勧めて下さる先生方の意見ですとか、現場の意見を反映させながら、できれば楽しく取り組めるというものにしていただければと思います。

(2) 議事

①平成26年度事業実施状況（平成27年1月末現在）について

- レファレンスコーナーのモニターを更新され、とても使いやすそうでブルーレイも見られるとのことですので、良い教材になっていると思います。貸出教材が古くなっていますが、いろいろなところで無料の教材も配られており、銀行協会から詐欺防止対策用のものが配付されましたので、寄贈しますので置かせていただければと思います。
- 随分前に制作されたものが新着教材リストにはありますが、これは予算の都合と何か理由があるのですか。例えば、1998年に作られたものがありますが、どうですか。
- 実は、保育所とかから御要望があった教材で、最新のものをということで考えていたのですが、この教材が最新版で、これ以降は更新されていませんでした。中身を見ても、象さんなどの動物による交通ルールの基本的なマナーですので、年数を経ても内容自体には今でも問題はありません。言葉を換えれば、これ以降子ども用のものは作られていなかったということです。
- 7番の教材も今と同じような理由なのでしょうか。
- 同じ理由です。ボランティアの基礎のDVDです。最新の活動のものとしては、東日本大震災のものを購入しています。
- 調査研究事業の「生涯学習の振興に関する調査研究」を3年掛けて行われ、モデル事業もされているということですが、今後、成果をどのように道内に広げられる予定があるのでしょうか。
- 2年目に行いましたむかわ町の事例ですが、関係職員のみで企画し事業展開していたものを産学官の視点を入れて充実できたということ。3年目は、留萌管内の主事会という組織で行ったものですが、広域性で管内、力を合わせて高校生を育てていこうという動きでリーダー研修を通して、いわゆる産学官という視点の中で地域資源・地域住民を巻き込んで、企業の考えも巻き込んで作ったということを報告書にまとめているところです。配付しながら、様々な場面で、今までの自前主義の事業ではなく、いろいろな角度、産学官の考えで学校の先生を巻き込んだり、あるいは企業・団体の視点を取り入れたりして、事業の幅を広げていくというようなお話をしていきたいと考えています。
- どのような場面で普及をされるのでしょうか、といいますのは、モデル事業は分かりますが、それぞれ地域には地域の事情もありますし、いろいろな形があるかと思えますので、折角、3年間掛けて作られたものをどう普及していくかということが大きな課題だと思います。
- 主催事業の中に、生涯学習推進基本講座という我々が管内に出で行う講座があります。その中で、我々が必ず行う基調講義とか演習の中で研究成果の報告をさせていただき、北海道で作っている生涯学習基本構想も2月に作られたばかりですが、これからの北海道の生涯学習をどう進めていくのかといったものと絡めながら普及啓発していきたいと考えています。この事業を行うには、必ず地域の社会教育主事会という専門職員の会がありますので、その会と共催をさせていただいて、互いに内容を詰めながら、地域のニーズを伺って講座を組み立てていますので、管内の要望に応じた提案をさせていただいているこの講座をフルに活用していきたいと考え

ています。

- この産学官の取組は、センターの皆さんも、道教委の皆さんも、地域の社会教育主事さんも、はっきり言ってかなり勉強しなければならないと思います。地域・住民、企業さんとの連携ですので、皆さん方の勉強が大変だとは思いますが、地域のために頑張ってくださいと思います。

②平成27年度運営計画（案）について

- ホームページの更新のお話がありましたが、このホームページは比較的中身が濃くて充実していると以前から評価をしています。しかし、若干、形式的に見ると古いタイプのホームページだと否めないと思っていました。今回、更新するにあたって、かなり大幅にリニューアルになるのか、もしくはそのまま移行するイメージなのか、また、新しい機能が入るのかなど、更新の考え方を教えてください。
- 現行のデータを移行する形になりますが、ホームページのトップデザインの見やすさや使いやすさ等については、委託業者が決定次第、調整・打ち合わせをしていきます。基本的な検索システムですとか、様々な情報についてはそのまま移行しますが、現在のシステムにはない動画の配信については新規に設置していこうと考えています。
- 基本的には、今のサーバーが2003サーバーという古いもので、動画の配信も受託業者のサーバーを借りて行っている状況です。今度の新システムに移行するにあたって、新しく入れられるものもありますし、今のトップページについては、専門の言語を用いて直さなければ作り替えられないものになっていますが、今主流のトップページはCMSというスタイルを使って、誰でもワープロが打てれば更新が可能なシステムもありますので、そのようなシステムを使い大きくトップページを変える予定です。また、これまで蓄積してきたデータベースの情報などは継続していく基本方針で担当部署と仕様を詰めているところです。
- 地元で15分くらいのPRビデオを作っており、その中でいろいろな問題に関して、例えば、馬のことなどを盛り込んで作っています。近隣でも結構作っており、もしDVDの機能などがきれいになるのであれば寄贈します。ほっかいどう学が発展するには、いろいろなまちのものを集めて、ほっかいどう学の問題だけではなく、そのまちのことを知ってもらえるようなシステムも作っていただけたら良いと思います。
- 先だって、インターネット講座の実行委員会がありましたので、いろいろなことを考えるのですが、一つは、テレビ放送からネットに代わったということは今までと受講層が変わるということだと思えるのです。そういう意味で、このようになりました、もっと利用してくださいというお知らせに関して、もっと何とかしないと大変ではないかと思えます。このアクセス数だと圧倒的に今までテレビで見ていた人の数と比べると少ないですね。実は、北海学園の菅原先生の講座「コミュニティカフェが北海道を変える？」を私の研究会で使おうと思って、出がけにプロジェクターにつないで見ようとしたのですが、上手く音が出ませんでした。高齢の方々が初めてインターネットを使って見るとなると大変なのではないかと思えますので、そういうことも含めて何とかしないとイケないと思えます。さらに、制作会社が頑張っていたので、私としては予想以上に良いものができたと思っています。そういう点でも、もっと活用してほしいので、私が今日体験したことを原稿にしてお渡ししますが、こういう使い方があるという活用の事例を上手く紹介していかなければならないのと、赤字が出ているとのことなのであれだけのものを作るのであれば、来年度は無理と

しても、もう少し何とかしなければならない、私としてはあれ以上質を下げないでもらいたい希望がありますし、あのレベルを保てるのであれば大学としては継続して参加しやすいと思いますので配慮していただきたいと思います。

あと、社会教育が厳しくなっているので、職員とか社会教育主事の研修などきちんとやらないといけないという御意見もありましたので、それに応えて頑張っていたきたいですし、我々も協力させていただけることは協力させていただきます。

- 社会教育主事の皆さんは、これからますますきつくなると思います。今、市町村や国が求めている社会教育主事というのは結構難しいので、今一度考えながら皆さんとお付き合いしていただければもっと北海道は良くなるという気がします。国も社会教育主事のあり方を変えると、国社研のやり方も全体的に変えると言っていますので、皆さん方も大変だと思います。知恵を出し合ってお互い協力してやっていく体制を上手くできればいいと思います。これまでの苦労は分かりますが、どこかで行き違いやボタンの掛け違いがあって今に至っていると思いますので、ボタン一つ一つを丁寧に掛ける、丁寧に話し合うことがこれからも絶対必要になってくるし、社会教育主事さんも幅広い目でいろんな各市町村を見てあげてほしいと思います。ここ何年かほとんど同じ市町村で事業を行っていますが、いろいろなことをやっている市町村がたくさんありますので、今一度皆さんの目で確かめてセンターが良い発展をしていただきたいと祈っています。
- 運営協議会の持ち方ですが、北海道の広範囲から運営協議会の委員の方が選ばれていますので、一堂に会して行う会議も大変貴重だとは思いますが、実験的にウェブ会議など遠隔地同士を結んで行うような会議はできないのか、と言いますのは、この間、推進センターで試行されている、ある意味、実験を伴うようなやり方で推進されてきている生涯学習や社会教育の支援のあり方の部分に関して、この協議会自体も同じようなやり方で新しい仕組みやICTの機能を使って実際にチャレンジしてやってみると、少し見えてくるようなものやヒントになるようなものがあるのではないかと思います。道の方も厳しい予算目標を提示され御苦労が多いところだと思いますので、交通費削減という部分も含めてチャレンジができないのか御提案させていただきます。
- ウェブ会議については、それぞれの委員さんのウェブ環境の構築も必要になってきますので、それぞれの御事情の部分も考慮しながら検討を進めなければならないのかと思います。ただ、もし欠席される場合でも、自分の職場からなら参加できるという場合もあるかもしれませんので、そういった形での参加ですとか、多くの委員の方から御意見をいただけるような形での設定を考えていきたいと思えます。
- 調査研究成果の共有やそこから学んでいこうとした場合に、折角、調査研究の事例を報告していただきましたので、例えば、沼田町とか十勝管内で取り組まれた地域と結んで、実際に取り組まれた方のお話を聞くとか、なるべく臨場感のあるような形で我々自身も学ばせていただくと意義のあるものになるのではないかと思います。それと、学校とか委員の所属するところにウェブ環境を持たせるということもあるのでしょうか、例えば、道の施設ですとかに出向いてもらうことも負担感が少なくなるのではないかと思いますので、そういうことも含めて御検討いただければと思います。
- 運営協議会の持ち方に関してですが、この協議会は年度初めと年度末の2回開催されていますが、私は専門部会に参加して、昨年度はインターネット講座の設計、今年度はジュニアコースの設計の議論をさせていただきました。その中でリテイルについても報告していただいてディスカッションはしたのですが、節目、節目に協

議会に報告して議論していただくことが可能であればより望ましかったのではないかと常々思っていました。もし、あと1回年度の中盤で行うことができれば、専門部会で検討していることがこちらでも検討していただけたらと思いますので、可能であれば持ち方について来年度検討していただければと思います。

- 回数を増やすことについては、来年度の予算上、早急には回答できないところですが、ウェブを活用するとか、途中経過を報告するというのであれば、文書等や状況をネット上に公開出来る情報もあると思いますので、委員の皆さんへの経過報告について検討していきたいと思います。
- 会議の回数を増やすと、委員報酬が増えるので、提案しづらい部分ですが、例えば、専門部会の時に、可能であれば、報酬は払わないけれども委員の方にオブザーバーで参加して出ていただけてきたいと案内するとか、そういうことも含めて、本当はもう3回くらいやってもいいのではないかと思いますけれども、予算が出ないということであれば、そういうような方法で折角専門委員の方が議論していただいたことをもう少し委員が入って一緒に議論することで良い提案ができるのではないかと思います。地方の方はなかなか大変だと思いますが、札幌市周辺の方であれば都合が付けば何とかするという方も出てくると思いますので、積極的に検討していただければと思います。その他意見がなければ本日の議事を終了いたしますが、このメンバーでの会議が最後となりますので、皆様から感想をいただきます。
- 生涯学習推進センターが発展するには、皆さん方の努力と周りの人たちとの本当の心の通った連携、そして地域のことを考えてくださる連携が一番大事だと思います。市町村にしても学びたいことがたくさんあるのです。分からないこともたくさんあるのです。市町村に社会教育主事さん達がいなくなっている中で、指導できるのはセンターしかないのです。いかに社会教育主事として勉強して発信するかが一番問われている時だと思いますので、いろんなことでボタンを掛け間違わないように、皆さん方ともお付き合いしていただいて、きちんとした本当の発信ができるようなセンターになっていただきたいと望んでいます。国や他県の方とお付き合いしていますが、ちょっと寂しい気がしていました。頑張っていたきたいと思います。
- 道民カレッジ運営委員会からこの運営協議会に参加させていただき、2年間努めさせていただきました。専門部会にも参加させていただいており、昨年度は、インターネット講座のデザインを議論させていただきましたが、社会全体で予算も縮小していく中で、どうやって学習の機会とか場を保証していくのが難しく、実際に制度を作っていくうえでも難しいと実感して関わらせていただきました。先程お話しもありましたが、こういう時代ですのでそれぞれの立場の人が力を合わせて学習の場とか機会を確保していかなければならないと思っています。議論させていただいたことを踏まえて、また、大学でどういうふうに学習の場を作っていけるのか考えながら取り組んでいきたいと思いました。
- とても勉強する機会となりました。社会教育主事の厳しい時代ですので、地方の社会教育主事として頑張っていきたいと思っています。
- 仕事においては、中小企業の経営者団体ということで、そこに働いている人たちと経営者が一緒に育ち合っていこうという観点から学び合うということを大事している会の事務局をしています。働く期間が社会的な要請からどんどん長くなってきて、60歳から65歳、70歳という声も聞こえ、元気なうちは働いてくださいという社会になっています。その間、働きながら学んでいける、学ぶ場がある、学べるという社会にどうしていくかということの大切さをこの会議を通じても学ばせていただきました。生涯学習の中で実際に仕事をしている人たちが学習をする機会や意欲をど

のように喚起していくのか、また、どのようにそういう場づくりをしていくのかということがますます課題だと改めて感じました。機会がありましたら、また、こういう場で勉強させていただきたいと思います。

- はじめてこの協議会に参加させていただき、いろいろな取組が行われていることを知り、自分自身の勉強するスタートだったと思います。併せて、メディアを変えながら新しい学びの場を作っていくという一番動きの激しい時に、委員として参加させていただいたことは、自分自身にとっても学ぶ環境を考えるきっかけでしたし、いいチャンスだったと思います。これからも、新しいメディアを使った学びの場のますますの充実とか見直しを含めた発展があると思うのですが、新しい仕組みを活用して、今後も、道民の生涯学習が進んでいくよう頑張っていたいただければと思います。
- この2年間を通じていろいろ勉強させていただきました。また、この推進センターの職員の方が、道内の生涯学習についてどのように活躍されているのかを目の当たりにさせていただいて、こういう方たちが支えているのだと勉強させていただき、気づかされたことを非常に有り難かったと思っています。私は、ネット検定の運営委員に命ぜられており、また、ほっかいどう学の歴史と文化の学ぶ会の幹事長も命ぜられていますので、そういった観点から引き続き生涯学習についてサポートできればと思います。
- 生涯学習ということでは、社会教育施設とも言える美術館でNPOの活動をしながら、さらに、様々なジャンルのNPOの活動を眺めながら仕事をしております。そういう中で、生涯学習をセンターの皆さんと違う角度から見ていると思っており、生涯学習というのは、今の日本の状況の中で、公共という概念が変わっていく中、本当に大事なものだと思っています。ただ、生涯学習が目的、目標ではなく、生涯学習があつてこそ公共づくりをしていくのではないかと考えています。本日も、産学官という言葉が出ましたが、産学官民という言い方はあまりしません。そこに、冒頭、「所長の人口減の北海道」という話もありましたが、地域を興していく力になっていくのが、まさに生涯学習の力の結果だと思いますので、ますます大事なところだと思います。そういう意味でもいろいろなことを考えさせられた2年間でした。
- 大学に勤めて、最初の仕事が北海道地域リカレント教育推進事業でしたので、その時の大学・高等教育機関がネットワークを作って地域・道民の方の生涯学習の機会をより豊かなものにしていくというミッションに関わってきました。道民カレッジも札幌市民カレッジも発足に関わったのですが、全体としては、行政側の社会教育・生涯学習の重点の置かれ方が厳しくなってきたということもあって、センターの皆さんも元気がなくなってきたというような感じを受けています。社会教育施設とか基本的な仕組みとかはきちんと残っているので、それらが相互に関連・連携し合って役割を發揮できるように丁寧にやっていくことが、今、求められています。社会教育主事ですとか社会教育委員の役割ですとか、協力して社会教育計画をつくるとか、それを道がきちんと支援していくことがますます大事になってきていると思います。私も、市町村、地域レベルで丁寧な仕事を生涯学習推進センターと一緒にできればいいなと思っていて、石狩市とかでそういう取組を始めているのですが、そういうことをできるだけセンターの事業にも反映させていただいて、委員の皆さんも任期が終わっても縁がなくなるわけではないので、皆さんからもいろいろ協力を受けながら、こらからの北海道の生涯学習をもっと発展させていけるように力を發揮できたらと思っています。

以上で議事を終了いたします。